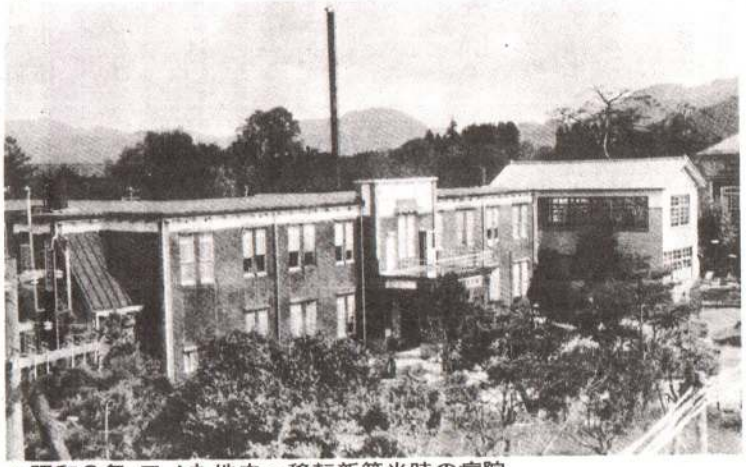
ミニガイド

—大館市立総合病院の沿革—

健康を守り続けて110年

市立総合病院が誕生したのは、今から百十年前の明治十二年のことです。大館町在住の医師川瀬玄探ほか七人の主唱により、私立大館病院として馬喰町で開院されました。三年後の明治十五年、私立病院を廃止し五十カ町村連合による公立大館病院が発足。昭和二年には、三ノ丸地内に新病院が建設されましたが、二十八年の大火で全施設を焼失し、現在地の豊町に移転。四十一年二月、公立大館総合病院組合の解散により、大館市が一切の事務を継承し、大館市立総合病院が発足しました。

現在は、医師四十人、医療技術員五十六人、看護婦二百三十二人の医療スタッフをそろえ、二十科(室)五百五床を有しています。六十二年度中には、延べ五十六万五千人が診療を受けており、地域のセンター病院として、大館市民はもとより北鹿一円の住民の健康を守り続けています。



▲昭和2年、三ノ丸地内へ移転新築当時の病院

ちびっこギャラリー おとうさん

桂城幼稚園

あさりのぶたかくん

おとうさん、なつやすみにゆうえんちへつれてってね。

とがしやすおくん

おとうさんは、木でヒコーキをつくってくれるよ。

そうまけんすけくん

野球をして遊んでくれるから、おとうさんだいすき。

人物登場

県内初の日本代表スキーヤー

角(かど) 昭吾(しょうご)さん

(水門町・57歳)

十和田湖畔の小坂町七滝出身の角さん。「子供のころは、冬の遊びといえばスキーしかありませんでした。遊びというよりも、当時の冬の十和田では、生活にかかせない道具の一つがスキーだったんです。雪が深かったので、通学やお使いなどはスキーで出かけたものですよ」。

角さんは、昭和二十四年に営林署に採用となり、秋田営林局管内の職員で構成する秋田林友スキー部に所属しました。同スキー部は、全日本スキー距離リレー(天皇杯)において、三連覇は不可能というジンクスをものともせず、三十一年に大館で開催された同大会で不滅の五連覇を達成。その立役者となったのが角さんです。また個人でも全日本、国体をはじめ各種大会で数多くの優勝を飾っています。そして二十九年には、秋田県スキー選手として初めて世界の檜舞台(ひのきぶたい)へ。スウェーデンでの世界スキー選手権、ノルウェーでの国際スキー大会などでヨーロッパを転戦し活躍しました。

「当時の思い出で、今でも忘れられないことがあります。スウェーデンへ出発する前のことなんですが、お世話になった皆さんへのあいさつまわりで最後に桂高校へ行ったときのことです。私としては、校長先生にあいさつをして帰るつもりだったのですが、学校では体育館に全校生徒を集合させていて、私が体育館へ入ると同時に一斉に拍手をして迎えてくれたんです。なにせ独身時代のことですし、人前で話をすることが苦手な私が、女生徒だらけの中で壇上へ登らせられたのですから、もう大変。頭がボーとしてしまい、顔を上げるのもやっとで、何をしゃべったのか、何が何だかわからないまま桂高校を後にしました。今思い出しても赤面してしまいますよ」。と角さんは、にこやかに話をしてくれました。

▲昭和27年、札幌での全日本選手権で力走する角さん。

次回は「上川沿地区」編をお送りします。